

平成 25 年度 子ども育成学部

自己点検評価報告書

1. 概要
2. 現況
3. 教育課程
4. 実習
5. 学生生活支援
6. キャリア(資格取得・就職)支援
7. 地域交流・貢献活動
8. 後援会・家庭連絡
9. 研究活動
10. その他
11. 将来構想

平成 26 年 3 月
富山国際大学 子ども育成学部

1. 概 要

1. 実績と現状

(1) 学部の理念・目標の達成

富山国際大学は、「時代の潮流に対応できる健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会及び地域社会の発展に寄与する」ことを基本理念としている。平成 21 年 4 月、少子高齢化時代における地域課題の解決に取組む人材の育成を通して、地域社会に貢献することを目的として、呉羽キャンパスに子ども育成学部を設置した。

子ども育成学部がめざす人材像は、教育的愛情と子どもの福祉(幸福)への献身、専門的な知識・技術と豊かな人間性を併せ持ち、一人ひとりの子どもの発達を理解し、主体的な活動を促す環境を整えて、子どもの生活・学習・発達を支援していく、実践的能力を備えた資質の高い子ども育成の専門家である。

学部開設 5 年目の平成 25 年度には、学生総数 318 名（総定員 330 名、定員充足率 96.4%）で新年度がスタートした。平成 25 年 3 月末には、第 1 期生に続いて第 2 期生 64 名が就職・進学など子ども育成学部での学びを生かして、それぞれの新しい人生を歩み始め、卒業生の累計は 140 名となって、平成 20 年 9 月文科省に提出した設置認可申請書で宣言した子ども育成学部の社会的使命を果たすことができた。

1・2 期卒業生の成果は、県内の教育・福祉・保育関係者の注目を集め、高等学校・受験生・保護者の期待と評価も高まって、平成 26 年度入試志願者数は、従前に比して 5 割増となった 25 年度入試とほぼ同じ水準を確保し、受験者層の質も向上した。

26 年度入学者は定員を 21 名上回る史上最多の 101 名、学生総数 344 名（総定員 330 名、定員充足率 104.2%）で、学部開設史上はじめて総定員を充足した。

(2) 教育課程・授業の展開

平成 24 年度から 25 年度への教員人事異動により、心理学分野担当教員の再構成（専任 2 名→専任 1 名）、図画工作分野教員の欠員対応（非常勤講師で対応）、情報関係分野の欠員対応（兼担で対応）を行った。一方で、国語教育分野及び算数教育分野で専任教授各 1 名を新たに配置し、従前の小学校教育分野の非常勤講師を削減して、小学校教員養成教育の充実を図った。各学年各分野の授業は、教育課程表に沿って概ね順調に開講された。

また、学生による授業アンケートは、例年どおり前期・後期の 2 回実施し、各教員の授業改善に生かしてきた。幼稚園・小学校教員免許取得希望者を対象にした「教職課程履修カルテ」及び「チェックリスト」を活用した、教職をめざす学生への指導も実施した。各分野の学外実習の事前・事後指導と実習報告会、卒業研究の中間発表と卒業研究発表会なども、学部完成年度の平成 24 年度までの経験を踏まえて、それぞれ改善・充実を図ってきた。

(3) 学生生活支援・家庭との連絡

学生数の増加に伴う校舎等施設利用のあり方など、学生生活をめぐる要望に応え、キャンパスアメニティを向上させるため、学生代表との懇談会や学友会（全員加入制）との連携に

も引き続き努めた。学生サークルも、次々に新規結成された。

富山国際学園創立 50 周年にあたる平成 25 年度は、新しい体育館や学生食堂など学生の福利厚生施設の整備が完成して、E 館 1 階ラウンジの混雑が解消され、6 階ラウンジでの学習環境（文科省「私立大学教育研究活性化設備整備費補助金」によるキャレルデスク、DVD 視聴機器等）も整備した。

個別的な学生指導では、適応支援チームを中心に、ゼミ担任・科目担当をはじめカウンセラーなどとも連携しながら、相談支援に努めた。家庭に向けた学部通信「保護者の皆様へ」（第 9 報・第 10 報）の配布、年 2 回の保護者相談会のほか、学生生活や進路についても、適宜個別に家庭（保護者）との連絡を行い、問題が複雑・重篤なケースには、保護者来校による懇談・面接指導を行った。

また、第 1 期生の卒業を機に、富山国際大学同窓会「蒼昊会」の子ども育成学部支部も結成され、大学祭に合わせた第 1 回ホームカミングデーにも多くの同窓生が参加した。平成 24 年度末に卒業生と在学生によって結成された小学校教育研究会の活動も活発に展開された。

（4）キャリア支援

キャリア支援については、平成 25 年度に引き続い「小学校教員採用 10 名、公立保育士採用 10 名、社会福祉士国家試験合格 10 名」を目標に、キャリア支援入門講座～支援講座を実施し、キャリア支援担当参事・事務室・分野担当教員・ゼミ担任の連携などにより、強化・充実を図った。

最終的には、卒業生総数 76 名に対して「小学校教員採用 5 名、公立保育士採用 9 名、社会福祉士国家試験合格 12 名」の成果を上げることができた。なお、臨時採用も含めた分野別進路については、「小学校分野 19 名、保育・幼児教育分野 34 名、社会福祉分野 8 名、教育・福祉系大学院進学 4 名、子ども育成関係機関・団体 3 名、企業 5 名、家事・その他 3 名」であり、卒業生の約 9 割が専門分野または関連分野に進んだことになる。また、社会福祉士国家試験には 15 名が合格した（うち既卒者 3 名、合格率 48.4%）。

（5）研究

教員の研究活動では、文科省学術研究助成基金（科研費）助成研究 5 件、（財）富山第一銀行奨学財団研究助成 3 件などの外部資金を活用した研究に取り組むとともに、研究紀要「子ども育成学部紀要」第 5 卷（13 件）を発刊した。また、学内教員相互の研究交流のための研究交流サロンも開催した（1 回）。

（6）地域交流・貢献活動

初年次に開設した「子ども育成研究交流センター」の活動として、子ども育成に関するセミナー及びフォーラムの開催（各 1 回）とニュースレター「子ども育成研究」の発行（2 回）、高校及び地域団体等からの要請に対応した出講プログラム（* 件）、教育・福祉・保育現場や団体・行政などからの要請に対応した各種審議会・委員会の委員、講演会・研修会講師、現場実践研究への支援活動など、多様な地域貢献に取り組んだ。

(7) 大学改革・教育改革への取組み

全学的な取組みの中で、文科省「知（地）の拠点整備事業」（COC事業）への申請（大学・短大共同申請（不採択））、教員個人評価のあり方の検討と改正（平成26年度から新書式で実施）、教員選考規程の見直し（平成25年度末現在未定稿）を行った。

学部運営体制としては、教育課程の運営及び実習指導体制を統合した組織体制への再編成を行い、教育指導・実習指導の充実を図った。

今後も、学部自身の責任と自主的な改革により、地域と時代のニーズに対応した教育・研究・社会貢献活動を展開していく必要がある。

2. 課題

(1) 第3期生の高い就職・進学実績の実現

第1～2期生の就職・進学実績は、関係者の間で注目・評価されたとはいえ、初期的成果に安住しているわけにはいかない。第3期生においては、是非、小学校、保育・幼児教育、社会福祉の各分野で、過去2年間の水準を上回る成果をめざしていかなければならない。

(2) 学部総定員（収容定員）の確保に対応した教育の質の確保

学部開設以来6年目にして、学生定員の確保（総定員の充足）が達成された。今後は、定員を大幅に上回って入学した1年生への教育の質の向上に向けたきめの細かい指導、1・2期生に比べて意慾・実力低下が懸念されている第3期生（4年生）への、キャリア支援の強化、卒業に向けた指導の充実など教育の質の確保が課題である。

(3) 再編された教員組織・事務組織の活動充実

平成25・26年度の人事異動により、教員組織の再編が行われて、学部開設以来の教員は10名のみになった。学部開設の理念を共有し、開設時以来の実績を適切に継承・発展させて、学部としての教育力・研究力・社会貢献力をさらに高めていかなければならない。

2. 現況

1. 学生の状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

	在籍数	内訳(1) 男：女	内訳(2) 出身県						備考
			富山	新潟	石川	福井	岐阜	愛知	
1年生（定員 80 名）	85 名	17 : 68	80		1	1	2	1	
2年生（定員 80 名）	77 名	22 : 55	69	7	1				
3年生（定員 85 名）	77 名	21 : 56	69	5	1	2			
4年生（定員 85 名）	78 名	16 : 62	72	4	2				
計（定員 330 名）	317 名	76 : 241	290	16	5	3	2	1	

（参考）平成 21～25 年度入試の状況

	募集人員	志願者	合格者	入学者	備考
25 年度入試	80 名	236	169	85	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5	1	1	1	3 年次編入学
24 年度入試	80 名	155	128	78	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5	1	1	1	3 年次編入学
23 年度入試	80 名	154	136	82	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5	6	6	5	3 年次編入学
22 年度入試	80 名	146	115	76	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
21 年度入試	80 名	92	82	64	推薦・一般

2. 教員組織（平成 25 年度）

区分	人数	内訳
子ども育成学部の専任教員	19 名	教授 8 准教授 7 講師 4
学園内教員（兼担・兼任）	16 名	現代社会学部 5 富山短大 11
学園外教員（非常勤講師）	38 名	
計	73 名	

3. 呉羽キャンパス事務室（平成 25 年度）

区分	人数	内訳
専任事務職員	3 名	事務長 1 主査 1 主事 1
兼任職員（短大）	2 名	図書館 1 健康管理センター 1
契約職員	2 名	参事（キャリア支援担当）1 職員 1
計	7 名	

3. 教育課程

1. 実績と現状

(1) 新規の取組み

- ① 子ども育成学部 CP の検討と完成
- ② 子ども育成学部シラバスの書式修正 (CP, DP の記入、「授業外学習等」・「授業外の質問方法」欄の追加)

(2) 教育指導

- ① 授業科目の履修指導・前後期末試験・再試験の実施
- ② 教養演習：(1・2年共通) リテラシー・ガイダンス(平成25年4月・5月)、ゼミ別合同発表会(平成25年7月)、大学祭展示発表(平成25年10月)、個人研究発表(平成25年10月～平成26年1月)
- ③ 卒業研究：(3年) 大学祭展示発表(平成25年10月)
(4年) 中間発表(平成25年5/20～5/24)、卒業研究発表会(平成26年2/8)
- ④ 地域社会参加活動：(1年) 各20時間の地域活動体験、活動報告会、活動報告集
- ⑤ 第1回万葉カンタービレ(短歌)：審査員賞1作品、入賞13作品(平成25年9月)
- ⑥ 富山県私学祭出品：3点(1、4年) 出品(平成25年11月：高岡文化ホール)
- ⑦ 学外施設を使用した授業：

授業科目	開講時期	使用施設	実施日
日本の動き	1年前期	北日本放送	25.6/6(木)
		北日本新聞社(越中座)	25.6/27(木)
体育実技	1年前期	小杉体育館	25.4/10(水)～7/17(水)
図画工作	1年前期	射水市大島絵本館	25.6/20(木)
		県民公園太閤山ランド	25.7/11(木)
地域社会参加活動	1年前期	県総合運動公園陸上競技場(障害者スポーツ大会)	24.5/12(日)
子ども文化	1年後期	富山県こどもみらい館	25.10/23(水)
自然体験活動	1年後期	呉羽青少年自然の家	25.10/30(水)
		富山県中央植物園	25.11/20(水)
		富山市ファミリーパーク	25.11/27(水)
体育	2年前期	富山県総合運動公園陸上競技場	25.8/22(木)・8/23(金)
		富山市民プール	25.8/28(水)・9/2(月)
図画工作科教育法	2年後期	富山県立近代美術館	26.1/28(火)
保育内容(造形表現)	3年後期	富山県立近代美術館	26.1/28(火)
子どもと 情報メディア	4年前期	北日本新聞社、県政記者クラブ	25.5/23(木)
		富山県警記者クラブ、経済記者クラブ	25.5/30(木)

- ⑦ 授業改善の取組み：授業アンケートの実施(前・後期末2回)
- ⑧ 平成25年度「入学前オリエンテーション」の実施(平成25年12月 呉羽キャンパス)
[推薦入学予定者29名、3年次編入生4名]

2. 課題

(1) 教養演習の運営方法、活動内容

ゼミ配属については、病気に罹患したり欠席したりしがちである要配慮学生を、一部ゼミに偏らないよう注意した。

年間を通しての活動内容としては、1. (2) ②で挙げたものがパターン化されつつあるが、これをいつまで継続するのか、振り返りと将来展望を兼ねた検証が必要であろう。

なお、富山国際大学のアクションプランのなかで検討された自校教育については、平成 26 年度より、学長による講演会の実施を計画している。

(2) 卒業研究の運営方法

平成 24 年度のスケジュールを踏襲して、3・4 年生が中間発表、卒論発表を行った。ただし、実習や就職活動で忙しい学生たちが本格的に卒業研究に取りかかるのが遅いため、卒業発表会や要旨の完成度にもばらつきが感じられた。

また、卒業研究発表会はゼミごとに会場が決まっており、3 年生は関心ある会場へ自由に移動することができなかつたので、当日の運営について検討する必要があろう。

(3) 国際交流活動の広がり

国情による渡航中止のため昨年度実施できなかった「異文化研修(フランス)」旅行に、子ども育成学部生 8 名が参加した(平成 25 年 2 月 24 日～3 月 7 日)。なお、当該科目は現代社会学部の開講科目であるため、他学部履修として扱われてきたが、平成 26 年度入学生より子ども育成学部の独自科目として単位履修できるようになった。

4. 実習

1. 実績と現状

(1) 実習の取り組み状況

- ① 「幼稚園教育実習Ⅰ」：86名付属みどり野幼稚園他（H25.10～12）、報告会（H25.11・12）
- ② 「幼稚園教育実習Ⅱ」：18カ所24名（H25.9）、報告会（H25.10）
- ③ 「保育所実習Ⅰ」58カ所58名（H25.9）、報告会（H25.9）
- ④ 「保育所実習Ⅱ」41カ所41名（H25.6）、報告会（H25.7）
- ⑤ 「施設実習Ⅰ」：28カ所56名（H25.11）、報告会（H26.1）
- ⑥ 「施設実習Ⅱ」：6カ所6名（H25.6）、報告会（H25.7）
- ⑦ 「小学校教育実習」：42カ所47名（H25.9）、報告会（H26.2）
- ⑧ 「介護等体験」（小学校教員免許関連）：55カ所50名（H25.6～12）、報告会（H26.2）
事前研修1日＋社会福祉施設5日＋特別支援学校2日
- ⑨ 「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」：15カ所19名（H26.2～3）、報告会（H26.4予定）
- ⑩ 「スクールソーシャルワーク実習」：中学校2カ所、生活保護受給世帯4カ所、児童養護施設1カ所6名（H25.5～12）、報告会（H26.2）
- ⑪ 「富山に学ぶインターンシップ」：24カ所24名（H25.6～1）、報告会（H26.1）

(2) 履修要件抵触者への対応

延べ27名に対して検討・指導を行った。

第1回 H25.8 14名 第2回 H26.3 13名

2. 課題

(1) 履修要件抵触者及び実習延期者への対応

「富山国際大学子ども育成学部授業科目の履修に関する細則」の第17条の履修要件に抵触する学生に関して、8月と3月に検討会議を行った。実習延期者に対し、資格取得の目的意識を明確にすると共に、卒業後の進路を踏まえた対応が必要である。

(2) 複数資格取得者の事前指導の徹底

複数資格取得者には、事前指導において資格取得の意思確認等を徹底する必要がある。

(3) 実習報告会のあり方

時間割がタイトであることから、あらかじめ報告会の開催日を年間計画に入れ込む等の対応をしたが、実際は実施日を調整したり、報告会までの準備期間が短い等の課題が残った。

(4) 実習指導センターの充実

資格取得に必要な実習が、10実習に及ぶことから、実習指導センターの機能を充実させるために、実習担当職員の配置が。

5. 学生活支援

1. 実績と現状

(1) 新規の取り組み

- | | |
|-------------|--|
| ①駐輪場の整備 | : G館の改築ならびに周辺の整備に伴う駐輪場の増設 |
| ②学生ホールの整備 | : G館内に新しい学生食堂と体育館を改築 |
| ③ラウンジの充実 | : 後援会より6階にキャレルデスク20台増設 |
| ④同窓会に向けての支援 | : 同窓会支部「子ども育成学部支部」の準備・設立
・仁友祭時のホームカミングデーの開催
・第5回公開セミナー時の進路相談会の開催
・規約、役員、予算、活動計画を策定(H26.2) |
| ⑤新駅設置に向けた活動 | : 願海寺駅(仮称)設置に向けた懇談会への出席 |

(2) 現状 (①=1年生、②=2年生、③=3年生、④=4年生)

1. 学部交流会: ①②③④ アルビス小杉総合体育センター (H25.4)
2. オリエンテーション交流合宿: ①② 砺波青少年自然の家、砺波チューリップ公園 (H25.4)
3. スポーツ文化交流会: ①②③④ 東黒牧キャンパス(運動系・文化系)、
呉羽キャンパス(清掃活動) (H25.5)
4. 学友会の運営支援: ①②③④ 総会 (H25.4)、七夕コンサート (H25.7)、
オープンキャンパス (H25.7・8)、クリスマス会 (H25.12)、
音茶会: 地元自治会の招待交流 (H26.3)
5. 大学祭実行委員会の運営支援
6. 大学祭(第5回仁友祭)の開催 (H25.10): ①② ポスター発表: 教養演習
テーマ: Colorful~ぼく色×君色=採光~ ③ 卒業研究ゼミ紹介 ④ 卒業研究紹介
①②③④ 各実習紹介
①②③④ 各サークル企画イベント
①②③ 模擬店
7. クラブ・サークル活動への支援: ①②③④ 運動9・文化16 計25サークル
(運動系) バドミントン バスケットボール バレーボール 体操競技 自転車 テニス
フットサル 女子軟式野球 ビーチボール 女子軟式野球 ビーチボール
(文化系) アカペラ Harness ダンス(H25年度学長功労賞) 美術 演劇 Photo JAZZ 吹奏楽部 音楽 東北震災復興支援サークルへそ ダーツ 天文学 小学校教育研究会 保育サークル~にこにこ~ SSW研究会 TUINS English Club (H26.3現在)
8. 「夢への架け橋事業」への応募・実施: ①②③④ 2件
(ア) 東北震災復興支援ボランティアへそ: 東北震災復興支援ボランティア(2年目)
(イ) 限界集落支援チーム: 限界集落支援事業(2年目)
(助成額: (ア) 184,000円、(イ) 122,400円)
H25年度学長功労賞

9. 学生の要望をめぐる懇談会（学友会と教職員）：①②③④ 2回実施（H25.6、H25.12）
10. 富山市呉羽消防署署員による救命救急講習会：①② H25.8 実施
11. カウンセリング及び適応困難学生のための適応支援チーム：随時実施
12. 交通安全講習会：①②③④ 富山西警察署（H25.10）

2. 課題

（1）図書館の開放時間の延長（継続課題①）

今後、講義終了後も調べ学習が必要となる科目が増えていくことが十分予想されるため、可能な限り、図書館の開放時間の延長を検討していただくよう要望していく。

（2）学生の自主性（継続課題②）

学生がより主体的に活動できるよう、教員が側面的に支援できる体制づくりが必要。

（3）東黒牧キャンパスの学友会組織等との整合性（継続課題③）

学部間において各組織形態等がばらばらであるため、統一感をもたせることが必要。そのためにも、より有機的・友好的な交流を設けていく必要があり、特に意見交換の場等は、両キャンパスを交互に変えながら開催していく等の工夫も必要である。

（4）同窓会の支部組織「子ども育成学部支部」への支援

ホームカミングデーをはじめとする卒業生同士の交流は勿論のこと、在校生とも交流や勉強会等ができる場を支援していく必要がある。例えば、小学校教育研究会等、各分野の研究会を支援していくことにより、在校生へのキャリア支援にもつなげていくとともに、卒業生にとっても自らの実践を発表できる貴重な機会の提供にもつながる。

「なりたい自分になれる大学」を追求していくためにも、卒業生による学生支援の場を今後定着させていく必要がある。

（5）ボランティアセンター設置に向けての支援

当初からの懸案事項の1つであるが、地域との関わりを持って取り組む地域社会参加活動をはじめ、学生生活をより充実したものにしていくためにもボランティア等の情報提供の場が必要である。どのような体制や仕組みがよいのか、本格的な検討が必要である。

6. キャリア（資格取得・就職）支援

1. 実績と現状

(1) キャリア関連講座の開講

- ①キャリア入門の開講：1年後期、時間割に組み入れ、小学校、幼稚園・保育所、社会福祉士の各分野についてローテーションを組み実施
- ②キャリア支援講座の開講：キャリア支援講座Ⅰ（2年・通年）、キャリア支援講座Ⅱ（3年・通年）、キャリア支援講座Ⅲ（4年・通年） 時間割に組み入れ（H25.4～H26.1）
小学校、幼稚園・保育所、社会福祉士、一般企業、進学
- ③専任教員による分野別講義（小学校、保育士、幼稚園教諭、社会福祉士、一般公務員）

(2) キャリア入門講座での特別講義

現場の専門家による講義（小学校(1/22)・幼稚園(1/15)・障害者施設(12/18)）

(3) 資格・免許希望調査：①H25.10 ②H25.1

資格・免許履修申込：①H25.2

(4) 学部キャリア支援ガイドブックの作成・説明：H25.3

(5) 模擬面接指導：本学教職員で実施

小学校、幼稚園・保育所、社会福祉士希望の4年生対象

- ① 小学校教諭希望者
4年生集団面接（5/21、6/18、6/25、7/2, 7/9） 個人面接（8/21）
3年生集団面接（7/5、7/12）
2年生集団面接（1/20、1/27）
- ② 幼稚園教諭・保育士希望者
4年生個人面接（採用試験直前）

(6) 公務員・教員採用試験対策講座：吳羽キャンパスにて6日間（H26.3）

(7) 模擬試験の実施：

- 小学校教諭希望3年生対象（一般教養・教職教養・専門教養 H25.6）：17名受験
- 小学校教諭希望4年生対象（一般教養・教職教養・専門教養 H25.5）：27名受験
- 幼稚園教諭・保育士希望3、4年生対象（一般教養・教職教養・専門教養 H25.5）：51名受験
- 社会福祉士希望3、4年生対象（中央法規 H25.8）：36名受験
(ウィネット H25.12)：23名受験

2. 課題

(1) 平成26年度入学生よりキャリア入門講座、キャリア支援講座を正規科目として一部必修化する予定であり、それに対応するための内容の検討が必要となる。

平成25年度卒業生(76名)の進路状況 平成26年4月10日現在

小学校教育分野 19 小学校教諭	保育・幼児教育分野 34 保育士・幼稚園教諭	
萩浦小学校 池多小学校 立山中央小学校 2 桃李小学 校 福岡小学校 利賀小学校 豊田小学校 上市中央小学校 新庄小学校 比美乃江小学校 奥田小学校 さみさと小学校 神通碧小学校 朝日丘小学校 庄川小学校 藤ノ木小学校 古沢小学校 草島小学校	富山市 (柳町・大久保・石金保育所) 黒部市荻生保育所 魚津市住吉保育園 砺波市青島保育園 南砺市井波にじいろ保育園 入善町(南部・青木保育所) わかくさ保育園 3 じんば保育園 新庄さくら保育園 光陽もなみ保育園 婦中もなみ保育園 わかば保育園 富山保育所 かたかご保育園	にながわ保育園 神明保育園 杉原保育園 三日市保育所 2 浦山保育園 上口保育園 射水おおぞら保育園 3 ちゅうりっぷ保育園 同朋認定こども園(幼) 同朋認定こども園(保) 大野町保育園(金沢市) 児童養護施設東京育成園
社会福祉分野 8 社会福祉士・相談員等	関係機関・団体等 3 (任期付採用含む)	企 業 5
アルペンリハビリ病院 アルペン・あしたねの森 だいご清水館 2 新生苑 藤木病院 こぶしの庭 自立支援センター富山	日本赤十字社 高岡児童相談所 立山少年自然の家	サンキュー(100満ボルト) スクランブル・エッグ 中部特機産業 立業社 ワイケイホーム
	進 学 4	
	富山大学大学院 2 上越教育大学大学院 2	家事・その他 3

25年度富山県公立学校教員(小学校) 7名合格! (うち既卒者2名) (24年度 6名合格)

25年度社会福祉士国家試験 15名合格! 合格率48.4% (うち既卒者3名) (24年度 8名合格)

■複数免許・資格の取得

(1)1人当たりの法定免許・資格(小・幼・保・社)取得数:

4種類=2名 3種類=40名 2種類=23名 1種類=8名 無=3名

(2)資格・免許取得のべ数:

* 小学校教諭一種免許: 45名 (59.2%)

* 幼稚園教諭一種免許: 63名 (82.9%)

* 保育士資格: 47名 (61.8%)

* 社会福祉士(国家試験受験資格): 27名 (35.5%) うち合格者12名

* 社会福祉主事任用資格: 76名 (100%)

[日本社会福祉士養成校協会認定]スクールソーシャルワーカー: 3名 (3.9%)

7. 地域交流・貢献活動

1. 実績と現状

(1) 第5回子ども育成フォーラムの開催

- ・テーマ：「共存・共生のための特別支援教育と発達障害」
- ・趣旨：学校教育における重要課題のひとつである障害がある子ども達への支援、特に発達障害の子ども達への特別支援教育をテーマとして取り上げ、学校教育における共存・共生の在り方を考えた。特別支援教育の専門家を招いて最新の支援体制の動向について学び、発達障害の子ども達への理解と支援の発展、及び子ども育成に関する意識の向上につながることを目指した。
- ・開催日時：平成25年6月29日（土）午後1時半～4時
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 701-704号室
- ・参加者数：約200名

(2) 子ども育成学部第5回公開セミナーの開催

- ・テーマ：「子ども育成における多文化共生～外国にルーツを持つ子どもたちへの支援の現状と課題」
- ・趣旨：富山県内の保育・幼児教育、小学校教育、国際交流ボランティア活動の現場では、外国にルーツを持つ子どもたちへの様々な支援が展開されている。本セミナーでは、その支援の現状と課題について、支援関係者の間での情報を共有し、外国にルーツを持つ子どもたちと日本の子どもたちが、共に手を携えて生きていける地域社会づくりへの契機になることをを目指した。
- ・開催日時：平成26年2月15日（土）午後1時半～4時15分
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 701-704号室
- ・参加者数：約120名

(3) 平成25年度三大学連携教員研修連続講座

主 催：富山国際大学子ども育成学部 富山大学大学院人間発達科学研究所
上越教育大学教職大学院

開催日時：平成25年7月～8月（計5回）

開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 富山大学五福キャンパス 黒部市立宇奈月小学校
氷見市教育総合センター

本学部からは、別紙のように、水上義行教授と吉田昌弘准教授が各1回、講座を担当した。

(4) 高大連携授業（平成25年4月～26年3月）

①南砺福野高校福祉科教養福祉コース

毎週月曜日に2時間、年間35回の授業「福祉一般」を村上満准教授が行い、前年度（平成24年4月～25年3月）に続き3年目の実施となった。

(5) 高校出講プログラム（平成25年5月～12月）

4年制大学への進学に向けてのモチベーションを高めることに貢献しており、高校の授業で行われていない内容であるため、より高度でアカデミックな講義を高校生に触れさせる機会となっている。

依頼校の要請に応じて行うので、福祉や教育について広く教養を伝えることを旨とし、テーマについて大学知を伝えられたという点で意義があった。

高等学校を対象として、次のような出講プログラムを実施した。

	日付	希望教員	希望テーマ	出講場所	時間	対象
1	5月21日	村上 満 准教授	やさしい福祉学のすすめ	八尾高等学校	15:15～ 16:05	1年生
2	7月10日	開 仁志 准教授	保育者への道	高岡南高等学校	10:40～ 11:55	
3	7月24日	福島美枝子 教授	若者の異文化体験	氷見高等学校	10:50～ 12:15	2年生
4	7月25日	開 仁志 准教授	保育者への道	南砺福光高等学校	13:30～ 14:30	
5	12月11日	村上 満 准教授	地域及び障がい者福祉 の理解	となみ野高等学校	10:35～ 12:15	
6	12月5日	吉田昌弘 准教授	一体なぜ学校へ行くの でしょうか？	水橋高等学校	10:45～ 12:40	

(6) 平成25年度教員免許状更新講習

- ・募集期間：平成25年7月22日（月）～8月9日（金）
- ・日 程：平成25年8月21日（水）・22日（木）
- ・受講者数：26名（幼稚園教諭免許19名・小学校教諭免許7名）
- ・認定者：26名
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 401室・406室

(7) 平成25年富山県保育士試験（筆記）

社団法人全国保育士養成協議会の依頼により、筆記試験会場の提供及び筆記試験運営業務に対する教職員と学生アルバイトの人的支援を行っている。

実技試験（平成25年10月20日（日））は、本学大学祭期間と重複するため、富山福祉短期大学が試験場となり実施されている。

①日程

- ・筆記試験：平成25年8月10日（土）・11日（日） 7:30～18:00 269名受験
試験準備：平成25年8月9日（金） 16:30～18:00

②人的支援

- ・筆記試験：教員5名、職員2名、学生アルバイト9名

2. 課題

(1) 子ども育成フォーラム・公開セミナー

- ① 子ども育成学に関わる今日的課題のテーマを早い段階で設定し、財団への申請や印刷物作成等、事前準備を迅速かつ周到に実施することが必要である。
- ② 地域の関係者にさらなる関心を向けてもらうことが大切である。今はホームページ以外ではダイレクトメールを出しているだけだが、校長会や小教研など地域の関係団体に呼び掛けるなど、広く県下の小・中学校、保育所・幼稚園、社会福祉関係等に対する広報のあり方が課題である。

(2) 三大学連携教員研修連続講座

- ① 平成25年度研修講義録をアーカイブ化し、公開する予定。このことにより、受講者が事前に予習することもできるし、関心のある教員、学生の学びにも生かせるようになると期待される。
- ② 三大学連携講座について、地域社会に広く浸透させるという課題もある。
- ③ 教員を志望する学生が受け身の態度が懸念される。資質をあげるためにも、学生に三大学連携講座を浸透させることが必要である。

(3) 高大連携授業

これまで授業を実施した高校からは、本学部への進学がなかった。今後、進学希望者が出るような連携が必要である。

(4) 平成25年度教員免許状更新講習

- ① 募集要項の記載様式に関して、更新する免許等の種別、証明者記入欄の所属・捺印、年齢記載欄等、記入例を添付するなど記載漏れや間違い防止の工夫が必要である。
- ② 現在は必修領域のみの講習であるが、受講者のニーズがあれば選択領域を検討してもよいのではないか。その際は学年暦や学内行事及び富山短大との調整が必要である。

(5) 平成25年度富山県保育士試験（筆記）

現在、保育士試験は筆記試験のための会場提供と人的支援を行い実施しているが、本学の前期試験最終日に会場設営する必要があること、事前・事後の事務処理が煩雑であること、夏期休業期間に入り補助学生の確保が難しくなっていること等から、今後は会場提供のみとする方向も検討する必要がある。

平成25年度富山国際大学「教員免許状更新講習会」

1. 会場 富山国際大学 子ども育成棟 4F 406室・401室

2. 時間割

第1日目 8月 21日 (水)

日 時	講習テーマ	講習内容	講師名	会場	時間
9:00~9:10	学部長挨拶・事務連絡 (中井副センター長、小比賀事務長)			406室	10分
9:10~10:20	教職についての省察	学校を巡る近年の状況の変化	水上 義行 (富山国際大学 教授)	406室	70分
10:30~11:50	教員としての子ども観、教育観等について の省察	学校を巡る近年の動向	吉田 昌弘 (富山国際大学 准教授)	406室	80分
11:50~12:40		子ども観、教育・保健観の省察			50分
12:40~14:10	子どもの変化についての理解	食			50分
14:20~15:50	子どもの生活の変化を踏まえた課題	子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に關するものを含む。) 子どもの生活の変化と幼・小の役割 保育・教育ヒカウンセリングマインド	村上 滉 (富山国際大学 准教授) 大平 泰子 (富山国際大学 講師)	406室	90分

第2日目 8月 22日 (木)

日 時	講習テーマ	講習内容	講師名	会場	時間
9:00~10:20	教育政策の動向についての理解	学習指導要領の改訂の動向等 道徳教育等	【幼】開 仁志 (富山国際大学 准教授) 【小】大藪 敏宏 (富山国際大学 准教授)	401室	80分
10:30~11:40	法令改正及び国の審議会の状況等	教育をめぐる法令等の動向	後谷 環 (富山国際大学 准教授)	406室	70分
11:40~12:30		食			50分
12:30~14:00	学校の内外における連携協力についての理解	様々な問題に対する組織的対応の必要性 保護者との連携・地域社会との連携	【幼】宮田 伸朗 (富山国際大学 教授) 【小】中井 文之 (富山国際大学 教授)	401室	90分
14:10~15:40	学校における危機管理上の課題	学校における危機管理	【幼】原 稔 (富山国際大学 教授) 【小】辻井 滉雄 (富山国際大学 教授) 試験監督者 原稔教授	401室	90分
15:50~16:50	修了認定試験(論述式等)			406室	60分
16:50~17:00	免許状更新講習受講者評価書の記入			406室	10分
17:00~17:10	閉会の辞(福島センター長)・事務連絡(小比賀事務長)			406室	10分

現代的教育課題 2013

への挑戦! 3大学連携による

教員研修連続講座

ご希望の講座のみの参加も可能です。

	テーマ	担当／所属	内 容
第1回講座 7月29日(月) 会場 黒部市立宇奈月小学校	子どもを取り巻く教育課題と実践的指導法	時間／9:00～11:10 富山大学 教授 小林 真	気になる子どもを受け入れる学級づくり
		時間／11:20～14:20 上越教育大学 教授 水落 芳明	上手につながれる子どもを育てる授業
		時間／14:30～16:40 富山大学 准教授 久保田 真功	いじめの社会学
第2回講座 8月2日(金) 会場 富山大学人間発達科学部五福キャンパス	子どもの成長と環境	時間／9:00～11:10 富山国際大学 准教授 吉田 昌弘	教育における「環境」概念
		時間／11:20～14:20 上越教育大学 教授 木村 吉彦	幼児教育と小学校教育をつなぐスタートカリキュラム～幼児教育・生活科の本質と幼・保・小の連続～
		時間／14:30～16:40 富山大学 教授 神川 康子	学校教育と家庭教育の連携による子どもの生活習慣づくり
第3回講座 8月8日(木) 会場 富山大学人間発達科学部五福キャンパス	情報社会と教育	時間／9:00～11:10 富山大学 准教授 長谷川 春生	情報モラル・情報セキュリティの基礎知識と指導方法
		時間／11:20～14:20 上越教育大学 教授 石野 正彦	情報化社会における国語教育
		時間／14:30～16:40 富山大学 教授 黒田 卓	情報社会における情報メディアの活用方法
第4回講座 8月19日(月) 会場 氷見市教育総合センター	次代を担う教師の力量	時間／9:00～11:10 上越教育大学 教授 瀬戸 健	「若手教員」の授業力向上と校内研修
		時間／11:20～14:20 上越教育大学 教授 廣瀬 裕一	法令を踏まえた教育・指導
		時間／14:30～16:40 富山大学 教授 山西 潤一	グローバル化時代の教師の力量
第5回講座 8月20日(火) 会場 富山国際大学子ども育成学部呉羽キャンパス	生活・総合と学級づくり、授業づくり	時間／9:00～11:10 富山大学 教授 松本 謙一	生活・総合が生きる学級づくり
		時間／11:20～14:20 上越教育大学 准教授 松井 千鶴子	探究的な学習の構想と展開
		時間／14:30～16:40 富山国際大学 教授 水上 義行	子ども育成入門期における「生活科」の役割

現代的教育課題への挑戦!

2013 3大学連携による
教員研修
連続講座

会場

- 富山国際大学吳羽キャンパス
富山県富山市願海寺水口444 TEL:076-436-2570
- 富山大学五福キャンパス
富山県富山市五福3190番地 TEL:076-445-6011(代)
- 黒部市立宇奈月小学校
富山県黒部市宇奈月町浦山205番地1 TEL:0765-65-2288
- 氷見市教育総合センター
富山県氷見市本町4番9号氷見市教育文化センター
TEL:0766-74-8220

参加費
無料

近年、学校や教職員をとりまく様々な課題が出され、その早急な解決が求められています。これらの課題を「現代的教育課題」ととらえ、その解決に向けて、教員養成に関わる富山国際大学子ども育成学部、富山大学大学院人間発達科学研究科、上越教育大学教職大学院が連携し、富山を舞台に総勢15人の大学教員がそれぞれの研究をもとにわかりやすく語ります。教職員の方、これから教員を目指す方、また学校教育に関心のある方など、一段高い自分を志すあなたのご参加をお待ちしております。

※この講座は、平成25年度富山大学教員免許状更新講習及び富山県教育委員会が実施する11年次研修と兼ねています。

共催

氷見市教育委員会・黒部市教育委員会

日程

7月～8月の5回

- 黒部市立宇奈月小学校…7/29
- 富山大学五福キャンパス…8/2・8
- 氷見市教育総合センター…8/19
- 富山国際大学吳羽キャンパス…8/20

※詳しくは裏面をご覧ください。

申込み方法

当日参加も可能ですが、準備の都合上、事前にお申し込みいただければ幸いです。上越教育大学研究連携室にFAXかE-mailで、お申し込みください。

FAX: 025-521-3621 E-mail: kouen@juen.ac.jp

※E-mailの場合は、件名を「富山講座申込」とし、氏名、所属、参加希望講座をお知らせください。

問い合わせ

ご不明な点等ありましたら、E-mailでお問い合わせください。

E-mail: seto@juen.ac.jp

(上越教育大学大学院学校教育研究科 教授瀬戸健)

後援

富山県教育委員会

対象

保育所や幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等に勤務する教職員や教員を志す学生、教育に関心のある方など



参加申込書

現代的教育課題 2013
への挑戦! 3大学連携による教員研修連続講座
FAX:025-521-3621 (上越教育大学研究連携室) E-mail:kouen@juen.ac.jp

氏名

所属

ご希望の講座のみの参加も可能です。参加希望講座を○で囲んでください。

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

8. 後援会・家庭連絡

1. 実績と現状

(1) 後援会総会・個別相談会

H25. 6 後援会総会に合わせて個別相談会が実施され、相談希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、ゼミ担任などが対応した。

(2) 大学祭・保護者懇談会

H25. 10 第5回大学祭初日に、保護者説明会を開催し、学部と学生の概況、就職動向などについて説明した。

説明会終了後、希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、各ゼミ担任が対応した。

(3) 保護者あて「学生の皆さんのお概況について」の送付

H25. 6 に第9報、H25. 9 に第10報を送付して、学部の概況、各学年の学生の状況、家庭への要望事項などを記した資料を配布した。執筆は、学部長及び各学年演習担当者。

※別紙「第9報」及び「第10報」を参照

(4) その他家庭との連絡・保護者面談など

学業成績や学習態度、欠席多数などの問題、休学や退学、学外実習許可の履修要件に抵触する学生などの保護者について、適宜ゼミ担任または適応支援チームが個別面談の機会を持ち、家庭への状況説明と情報収集、連携協力依頼などを行った。

2. 課題

(1) 家庭との連絡・協力の一層の緊密化

現状では、問題発生への対処として個別相談を実施しているが、問題の予防的な意味からも、平常時からの家庭との連絡・協力を密にしていく必要がある。

(2) 相談記録の集約・保存・引き継ぎ・活用

家庭との相談の記録、学生の状況記録などは、各ゼミ担任個人レベルでの整理・保存にとどまっており、記録の作成・引き継ぎなどについては、記録用の様式について、学部として一定の書式が確認されたが、完全なルール化と円滑な運営までには至っていない。

既存の「学生に関する調査」と一体化した上で、一括管理して、記録、保存、閲覧、引継ができるようにしていく必要がある。その際、既存の「教職カルテ」の改良と活用も含めて検討していく必要がある。

保護者の皆様へ 「学生の皆さんの概況について」(第9報)

平成 25 年 5 月・子ども育成学部

1. はじめに

日頃のご理解ご支援、感謝申し上げます。今春 4 月から第 1 期卒業生が、子どもたちや地域の人々の期待を受け止めながら、子ども育成の現場で懸命に働き始めています。平成 25 年度入試の学部志願者は 236 名、新入生は 85 名、共に学部史上最多を記録しました。

ここに 6 月の後援会総会・個別相談会のご案内に併せて、学部と学生の皆さんの概況についてお知らせします。保護者の皆様方には、大学での学びと生活についてご理解いただき、ご家庭での懇談や指導などのご参考にしていただければ幸いに存じます。

2. 学生・教職員の現況 (25 年度始めの現況は、次のとおりです。よろしくお願ひいたします。)

- ・学生 1 年生 86 2 年生 77 3 年生 77 4 年生 78 合計 318 名 (H25.5.1 休学含む)

(内訳) [男子 77 : 女子 241] [富山 292 : 新潟 16 : 石川 5 : 福井 3 : 愛知 1 : 岐阜 1]

- ・教員 専任 19 (教授 8・准教授 7・講師 4)、学園内 21、非常勤教員 33、合計 73 名

- ・職員 専任事務職員 3、兼任事務職員 2、契約職員 1、派遣事務 1

3. 第 1 期卒業生 (64 名) の就職・進学状況 (H25.4.30) (1 期生として大きな成果を挙げました。)

- ・就職率 98.2% 小学校教諭 11 (内 5 講師)、保育士/幼稚園教諭 21、社会福祉士関係 13、
関係団体/企業 3、企業 8、大学院 4、専門学校 1、家事等 2、未内定 1

- ・資格/免許 小学校教諭 40 幼稚園教諭 47 保育士 41 社会福祉主任用資格 64

社会福祉士(受験資格 20・合格 8(合格率全国 31 位)) スクールソーシャルワーカー 2

2. 平成 25 年度の新規の取組み

- (1) 専任教員 (新規 2・補充 1) を採用し、教員採用試験指導体制を強化しています。
- (2) 時間割編成の工夫と正課外科目の見直しにより、過密時間割の緩和に努めています。
- (3) 学生の自習環境の充実、エレベーター利用ルールを緩和しました (上下 +3 階まで可)。
- (4) 第 1 期生の就職先への御礼訪問をしています (民間専門職の職場など)。
- (5) 同窓生の卒後教育と交流を支援します (教育研究会・大学祭ホームカミングデイなど)。

3. 各学年の概況について

○ 次のページ以降の、1~4 学年の概況報告をご覧ください。

○ 子ども育成学部の活動や学生生活の様子を、大学のホームページに随時掲載しています。
学びと生活の様子を、ぜひご覧ください。

4. おわりに

子ども育成学部は、「明日を担う子どもの育成を通して、地域に貢献できる人材の養成」を目的として、学生の皆さん一人ひとりの夢「なりたい自分」を叶えるための教育・研究に努めています。

学生の皆さんの自己向上努力を軸にしながら、保護者の皆様方と共に歩んで参ります。
今後ともご理解ご協力くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

(子ども育成学部長 宮田伸朗)

*** 個別懇談会についてのお知らせ**

- ・6 月 22 日 (土) の後援会総会に先立ち、ゼミ担任との個別懇談会を開催します。
- ・懇談を希望される場合は、ご遠慮なくお申し込みください。
- ・なお、ゼミ担任(学部長)から保護者の方に、ご来談くださるよう別途お願いする場合もあります。学業成績や学生生活、学外実習の履修などについてご相談申し上げたいと存じます。
- ・その節には、万障繰り合わせてご来場くださいますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

1年生の概況について

「教養演習」（1年生）担当教員

富山国際会議場で開催された入学式から早3か月が経とうとしています。緊張の面持ちで入学式に臨んだ新入生85名は、少しずつ大学での学習と生活にも慣れ、子ども育成学部の一員としての自覚が生まれ始めています。

1. 学習面・キャリア支援について

- ・4月4~5日のオリエンテーションの中で、学部ガイダンスとして、子ども育成学部の教育理念・目標、年間計画、教育課程・学年暦・行事予定ならびに取得できる資格・免許の説明を行いました。
- ・4月10日から始まった「教養演習」（1・2年生合同の必修ゼミ）では、『教養演習ガイドブック』などを教材に、授業ノートのとり方やレジュメ・レポートの書き方などを指導しました。2年生の先輩からの申し送りや経験談に、真剣に耳を傾ける姿が印象的でした。なお7月17日には、ゼミ毎に進めた共同研究の成果を発表する教養演習ゼミ別合同発表会を行う予定です。
- ・キャリア支援関連では、オリエンテーションの中で、小学校、幼稚園・保育所、社会福祉など各分野に向けた「キャリア支援講座」（後期10~2月）について案内し、計画的にキャリア形成ができるよう1年次から指導しています。キャリア支援講座の中では、小学校教諭、保育士、社会福祉士の第一線の先生方をお招きして、教育・保育・福祉の現場の話を全員で直接聴く機会を設けます。専門職への理解を深めながら、資格免許取得への動機づけとなり、学習への意欲を高めることを目的としています。なお、キャリア支援講座は、来年度より正式に単位認定される予定です。

2. 生活面について

- ・4月5日のオリエンテーションで1・2年生が初顔合わせをした後、各ゼミ室で教員や学生が交流する機会を設けるなど、新入生が大学生活に自然と馴染めるよう工夫しています。
- ・大学生活が順調に滑り出せるよう、ゼミ担任・事務職員・カウンセラーなどが一体となって支援に努めています。日々の授業への集中、規則正しい生活習慣と生活リズムの確立など、ご家庭でもご指導をお願いいたします。また、過度のアルバイト等に貴重な時間を割いて、折角の大学時代が犠牲にならないよう、ご理解の程お願いいたします。

3. 学校行事等について

- ・4月26日（金）・27日（土）の両日、昨年同様、砺波青少年自然の家で1・2年生によるオリエンテーション交流合宿を行いました。2年生の実行委員が昨秋から準備してきたプログラムに従い、緑豊かな自然環境のなか、校歌練習やゼミ別交流、サークルの紹介が行われました。夕食後は、体育館で思いっきり身体を動かすゲームを楽しみ、学友との交流がますます深まりました。二日目には、開幕直後の砺波チューリップフェアを見学し、目に見えて打ち解けるようになった友達と色とりどりのチューリップを堪能しました。
- ・4月26日（金）の午前中は、学友会総会ならびに今年で2回目となる全学年による学部交流会（ビーチバレー大会）を実施し、4年生を中心とする実行委員会のもとで行い、接触機会の少なかった3・4年生とも交流しました。

○保護者の皆様には、今後とも一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（「教養演習」1年生担当：彼谷・吉田）

2年生の概況について

「教養演習」（2年生）担当教員

24年度入学生は2年生に進級し、後輩として新入生が入学してきました。初めて大学で後輩に助言する立場となって、教え助言することの難しさを体験することともなっているようです。こうした経験と共に、着実に成長していく姿がみられるようになりました。

1. 学習面・キャリア支援について

- ・「教養演習」では、アカデミック・アドバイザー(ゼミ担任)のもとに 1・2 年生合同のゼミクラスを編成しています。大学での講義の受け方などについて、後輩も大学生活に馴染めるような学び合いの中で改めて大学生活の基本を再確認しました。これからは、7 月のゼミ別活動合同発表会に向けて 1 年生を指導しながら、共同研究をまとめ上げていきます。
- ・進路についてはゼミ担任との相談はもちろん、さらに充実した「2 年生キャリア支援講座 I」において各分野の仕事への理解をさらに深めたり、採用試験の概要を学んだりしています。この講座等を通して、進路を決定し希望を実現できるよう支援していきます。
- ・小学校教員免許取得希望者を対象に、5 月 15 日（水）「介護等体験」事前指導を行いました。早い学生で、6 月から特別支援学校や社会福祉施設に実習に出かけます。
- ・保育士資格取得希望者は、6 月 19 日（水）に「施設実習 I」で児童福祉施設等の見学をします。9 月の初めての「保育所実習 I」（0～2 歳児対象）に備え、事前指導を行っています。
- ・社会福祉士希望者が「相談援助技術」を学ぶための演習も始まりました。具体的な援助場面を想定した実技指導も始まり、専門的な技術とともにキャリア意識も深めていきます。

2. 生活面について

- ・自家用車通学者には事故防止のための注意を喚起しています。学園駐車場での駐車マナーも含め、特に交通安全についてはご家庭でもご指導をお願いいたします。
- ・授業に欠席しがちな学生は、進路の迷いや友人関係の悩みを抱えている場合が多く、ゼミ担任からの指導を中心に対応をしています。欠席回数が多いと実習の履修が延期される（資格免許の取得が困難になる）場合があります。ご家庭でのご支援もお願いいたします。
- ・アルバイトをしている学生が多くみられます。学業に支障がないよう夜のアルバイトは控えるよう指導していますが、「学業優先」についてご家庭でのご指導もお願いいたします。

3. 学校行事について

- ・4 月 26 日（金）・27 日（土）のオリエンテーション交流合宿は、2 年生の実行委員を中心に準備を進め、企画運営の経験を積む好機となりました。初日は全学年約 320 名が参加した学友会総会とともにスポーツによる学部交流会も行われ、さわやかに交流を深めました。

○第 2 学年は、その学生生活の過ごし方が、卒業後の進路を左右する学年でもあります。

保護者の皆様には、一層のご理解ご支援をくださいますようお願い申し上げます。

（「教養演習」2 年生担当：大藪・大平）

3年生の概況について

「卒業研究」（3年生）担当教員

3年生となり、大学生生活はすでに半分余りが過ぎたこととなります。日々の過ごし方を見直し、大学生活を有意義に過ごされることを願っています。目の前の将来像が近づいてきたことで、不安になっている学生も見受けられますが、毎日地道な努力を続けてほしいと考えています。

下記のとおり、学生の皆さんのお最近の状況についてお知らせいたします。

1. 学外実習について

- ・9月には、それぞれ3週間に及ぶ「小学校教育実習」と「幼稚園教育実習Ⅱ」が予定されています。
- ・小学校教育実習に向けては、教科教育法の授業で教材研究や指導案づくり、模擬授業を行っています。小学校分野の新任教員は現場経験者で、現場に役立つことを具体的に学ぶことができると学生達から評判です。
- ・幼稚園教育実習に向けては、内諾実習先を訪問し、園の教育目標や児童の生活について学びながら、15日間の実習で多くの学びを得られるよう着々と準備を進めています。
- ・社会福祉分野では、平成26年2~3月の25日間の「相談援助実習」のための演習などを積み重ねつつ、社会福祉士国家試験に向けた準備もスタートさせています。
- ・実習に向けて、「実際の子ども達の様子をもっと直接知りたい」と、「富山に学ぶインナーシップ」体験などを活用して、小学校・幼稚園（保育所）に出かける学生が、今年度は多く見られます。子ども達からの学びは深いものとなり、「就活」にもつながるものです。
- ・実習に行くためにはハードルがあり、「子ども育成学部履修規程」第6条にある5つの履修要件をクリアしなければなりません。残念ながら、3年生の中にはこの要件に抵触した実習延期者などが少なからず出ています。日々の学習について、地道な努力の積み重ねが望されます。担任（現・旧）や他の教員への相談、カウンセリング室利用もお勧めします。

2. 卒業研究について

- ・本学では3年次から4年次にかけて卒業研究を行うカリキュラムとなっており、4月よりそれぞれの専門分野に分かれて卒業論文作成の準備をスタートしました。なかなかテーマを絞りきれない学生が多いようですが、さまざまな先行研究を調べていくうちに、自ずと研究したい命題が出てくるはずです。4年次には卒業研究発表会が予定されています。
- ・5月には、4年生の中間ポスター発表があり、先輩たちが現地取材に出かけたり、懸命に先行研究論文を読み込んだりした成果を見て、大いに刺激を受けています。

3. キャリア支援について

- ・今年度前期は、金曜5限に「キャリア支援講座」が開講され、3年生は全員、小学校・社会福祉・保育の中で希望する分野を受講しています。企業や公務員などを目指す学生に関しても講座が開かれています。第1期卒業生も、講座を受けて実力をつけていました。
- ・小学校分野では採用試験対策、幼稚園・保育士分野では公立・私立保育園を中心とした採用試験対策、社会福祉分野では公立・私立の事業所等を目指した採用試験対策を行っています。参加率が非常に良く、関心の高さと熱意が伝わってきます。

●最終学年につながる大事な学年です。ご家庭でも一層の励ましをお願い申し上げます。

（「卒業研究」担当：仲井・本江）

4年生の概況について

「卒業研究」「キャリア支援」(4年生) 担当教員

子ども育成の学びの積み上げの最終学年となる4年生は、学部のリーダーとして力を発揮するとともに、下記のような様々な事柄に対応すべく忙しくも充実した日々を送っています。

1. 卒業研究について

3年次から始めた卒業研究については、これまでこつこつと地道にデータを積み上げてきた人から、アイディア勝負で短期集中型の研究を計画している人まで様々ですが、4年生全員が来年1月の論文提出、2月の卒業研究発表会に照準を合わせて、自身の力を発揮しながら立派に仕上げてくれることを期待しています。

卒業研究の期間は2年間であり、他の大学・学部に比べてかなり長期にわたるため、期間の中程に中間発表会を設けています。今年度は5月に変則的なポスター発表を行います。E館4階の廊下の壁面を使って5/20（月）～5/24（金）の1週間にわたり開催されます。4年生78人が各自の今までの卒研成果をA1判(A4判8枚分)ポスターにまとめて掲示します。通常のポスター発表では、発表者は指定された時間内にはポスターの前に待機していて、来場者と質疑応答をすることになるわけですが、今回はどの学年・分野とも時間割が詰まっていてまとまった時間が取れないため、質疑応答の時間を設定しないことにしました。その代りに、学生・教員が各自の空き時間を利用してじっくりとポスターを見る能够性を高めようと掲示期間を長く取り、疑問点があれば個人的に質問したり、会場に用意された質問用紙を使って間接的に質疑応答したりすることができるようにしました。

この中間発表は下級生にとっては、学びの集大成である卒業研究を進めて行く上での道標となる一方で、4年生にとっては質疑応答をとおして、研究の具体化や課題の明確化が進むことから、その深化が期待されます。

2. キャリア支援について

幼保分野では、公私立ともすでに募集要項が示され、求人も多く寄せられています。市町村保育士就職模擬試験による課題をチェックや、集団・個人模擬面接により、社会人としての態度を身に着けるよう努力しています。民間の幼稚園・保育所での就職に向けて、福祉職場説明会への出席、私立幼稚園適性検査の受検にも取り組み、夢に向かって頑張っています。

小学校分野では、最後の模擬試験、集団面接、採用試験直前の専門・教職教養演習に取り組んでいます。現在、富山県小学校教員採用試験に27名が願書を提出する予定です。

福祉職を希望する学生には、個別に指導しています。5月に富山県健康・福祉人材センターの求職者登録を済ませました。7月から福祉職場説明会が始まります。

なお、一般公務員・企業を希望する一部の学生に対しては、隔週ごとに、ハローワーク富山のジョブサポーターによる「キャリア支援相談コーナー」を設け、模擬面接の指導や就職情報、採用試験に向けて支援しています。また、全分野に共通して、願書の作成については、各講座内やゼミ担任が責任をもって指導した後、キャリア支援センターで最終チェックを行っています。

5月末現在、学生の希望進路（第一希望）の状況は、以下の通りです。小学校教諭27名、幼稚園教諭・保育園保育士31名、社会福祉関係10名、県・市の行政職員1名、一般企業6名など。

(「卒業研究」4年生担当：原・相山)

保護者の皆様へ「学生の皆さんのお概況について」(第10報)

平成25年9月・子ども育成学部

記録的猛暑の中での前期末試験を経て、4年生は教員・保育・福祉の公私就職試験、2・3年生は夏季休業中の保育所・小学校・幼稚園実習と、休む間もなく10月に後期授業が始まります。6月に続き、その後の学生の皆さんのお概況についてお知らせします。

1. 就職・進学・キャリア支援について

- ・4年生では、小学校教員5名、保育士・福祉分野15名、大学院進学2名などで合格・内定が出ています。未内定者には、求人情報への即応など、機敏な行動が求められます。保護者の方も含めて、遠慮なくゼミ担任や各分野の担当教員にご相談願います。
- ・3年生の「キャリア支援講座」は、分野別に集中的に指導します。基礎学力の再確認と時事問題への関心も求められます。3年次の努力が4年次の成果に直結します。
- ・2年生は、後期は専門職連携授業が多く開講されます。日々の授業、実習の事前事後学習への専心が大切です。就職準備の「教養試験対策講座」も全員受講を期待しています。
- ・1年生には、「キャリア入門講座」を開講します。①小学校教諭、②幼稚園教諭・保育士、③社会福祉士の進路選択について、ご家庭でも十分に話し合われますようお願いします。

2. 学習面について

- ・前期(4~9月)の学業成績を別添でお届けしています。一部の科目で、再試験対象者が目立ちました。実習を許可できない(=資格免許が取れない)場合や卒業延期の恐れがある場合は、面接指導や保護者の方との個別相談をさせていただきます。引き続きご理解願います。9月末までに、23年度生で退学、24年度生で休学が各1名ありました。
- ・教員・保育士や社会福祉士など子ども育成の専門家への道は、決して容易ではありません。実習先・就職先など社会の注目と期待は、極めて強く厳しいものがあります。日頃から「学びの精神」をしっかりと持って、授業・予習復習・課題などを地道に積み重ねることが、確かな就職につながります。生活リズムを崩す過度のアルバイトで、学生生活も将来も貧しくしてしまわないよう、ご家庭でも責任あるご指導をお願いします。

3. 進路・学習・生活面での相談支援について

- ・相談支援の窓口は、①ゼミ担任、②科目担当教員、③実習担当教員、④キャリア支援窓口、⑤事務室、⑥健康管理センターなど様々な相談が可能です。また、⑦投書箱・メール相談、⑨学友会役員を通しての要望・相談など多様な方法も可能です。
- ・授業や実習などをめぐり、自分の適性や進路選択の悩みなど様々な思いが交錯する時期です。保護者の皆様には、現実的で適切な助言などご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

4. 学園創立50周年と呉羽キャンパス工事竣工

- ・学生ホール・体育館、短大校舎の新築・改築工事が完了し、学生の福利厚生も充実しました。富山女子短期大学開設から50年、10月17日には富山国際学園創立50周年記念式典が、19・20日には50周年記念大学祭も盛大に行われます。10月20日の保護者懇談会にも、大勢の保護者の皆様のご来校をお待ち申し上げます。(学部長:宮田伸朗)

今年の夏は、猛暑日が続く一方、激しい雨も降り、変化の大きい気候でした。そのような中、各学生においては、充実した夏休みを過ごしたことだと思います。専門的学習や実習が本格化する後期に向けて、皆で気持ちを引き締めていきたいと思います。

1. 学習面・キャリア支援について

- ・前期の授業では、大学ならではの「1コマ（1時限）=90分」授業、論理的な思考力や探究力を問う学期末試験に、戸惑ったかもしれません。しかし、ほとんどの学生が無遅刻・無欠席で乗り切りました。後期から本格的に始まる専門的学習に向けての意欲も垣間見られ、頼もしさを感じます。ご家庭でも、授業への皆出席、自宅学習への積極的取り組みについて、引き続きご指導をお願いします。
- ・呉羽キャンパス体育館等の建替工事が遂に完成しました。工事中は、授業の際マイクロバスで移動するなど、窮屈な思いを余儀なくされたと思います。来年度2年次の「体育」の授業は新しい体育館で行われます。クラブ活動等でも体育館を使用できます。
- ・後期には、「キャリア入門講座」を毎週開講し、それぞれの資格・免許について幅広く知り、進路選択の一助となるようサポートします。ご家庭でも、将来の方向性について、是非この時期から話題にして頂きたいと思います。

2. 「教養演習」での活動について

- ・「教養演習」は卒業必修科目で、1・2年生合同で行います。前期にはゼミごとに決めたテーマで調査・探究活動を行いました。7月の「ゼミ別活動合同発表会」では、「手遊びの目的・効果」、「子ども服のトレンドと変遷」など専門分野を意識したテーマ、「よい睡眠をするために…」など学生の生活に密着したテーマなどについて、学生たちがプレゼンテーションを行いました。初めての発表に緊張する1年生を、2年生がしっかりとリードする様子が見られました。準備作業の中で、学生どうしの人間関係が構築され、個人のコミュニケーション力が向上していることが確認できました。（簡単ですが、本学ホームページに発表会の様子を掲載しております。<http://www.tuins.ac.jp/news/index.php?ID=941> QRコードは右記）
- ・10月19・20日の仁友祭（呉羽キャンパス大学祭）では、発表会の内容をもとにポスター展示を行います。是非ご来校の上、ご覧下さい。



3. 専門的学習や実習に向けて

- ・後期には、「幼稚園教育実習Ⅰ」（卒業必修）が始まります。社会人として必要なマナーも身につけながら、専門職の素晴らしさ・厳しさを体験する最初の機会です。
- ・日々の講義で興味ある分野について幅広く学びつつ、自分の目指す道を絞り始める時期であります。教職員一同、全力で教育・指導してまいりますので、保護者の皆様には、一層のご理解ご協力をお願いいたします。

（担当：彼谷・吉田）

2年生の概況について

「教養演習」（2年生）担当教員

夏季休業も終わり、後期の授業・活動に向けて学生たちはそれぞれ準備を始めています。保護者の皆様には、以下の点にご理解とご協力を下さいますようお願いいたします。

1. 授業・学習面について

- ・8月末には、保育士・幼稚園教員・小学校教員の資格免許科目の体育の学外授業が行われました。体育は卒業必修科目にもなっており、陸上競技場や市民プールで、2年生全員が幼児・児童の体育指導法について、自らの体験を通して学びました。
- ・大学祭（10月19・20日）において、教養演習で取り組んだ共同研究をポスター掲示で発表します。ゼミごとに取り上げた課題について調査研究を行い、その内容を自主的・主体的にまとめることをねらいとしており、前期から継続して準備を進めています。
- ・授業を6回欠席しますと、期末試験の受験資格がなくなり単位が取得できません。卒業や資格取得にもかかわる問題ですので、ご家庭でもご指導をお願いいたします。

2. 実習・キャリア支援について

- ・小学校教員免許取得希望者は、6月から随時「介護等体験」（特別支援学校2日間・社会福祉施設等5日間）に出かけています。介護等体験の終了後には報告会を開催し、体験の振り返りを行う予定です。また、来年9月・3年次の「小学校教育実習」に向けて、夏季休業中から自分の母校へ実習依頼に出向き、手続きを進めています。
- ・3年次に行われる「幼稚園教育実習II」の履修を希望する学生の申し込みが始まります。担当教員と相談しながら、実習先を自ら開拓できるよう支援していきます。
- ・保育士資格取得希望者は、9月中に2週間の「保育所実習I」を終えました。実習中も夕方登校して、手遊び、実習記録や指導案など真摯に取り組む様子がみられました。11月に行われる保育士資格科目の「施設実習I」についても、配属が決定しています。実習に向けて、実習施設についての事前学習と自己課題の明確化が望まれます。
- ・「キャリア支援講座」では、3コースから希望する分野に分かれて指導を行っています。小学校分野では、教員採用試験に向けて問題集に取り組み始めた学生の姿もみられます。保育分野を目指す学生は、課題作文や専門科目の学習に取り組みました。社会福祉分野では、社会福祉が関わる様々な課題について考える機会を持ちました。進路を決めかねて悩んでいる学生も一部に見られますが、ご家庭でのご支援をお願いします。

3. 授業外の活動・生活面について

- ・オープンキャンパス（7・8月）では、駐車場係や案内係などの運営を有志で行いました。歓迎ライブでは、アカペラ、音楽サークル、ダンスサークル等のメンバーも活躍しました。学友会主催のプレゼンテーションでは、2年生が中心となって大学生活についての紹介を行うなど、行事の企画・制作・運営を通して学びの多い機会となりました。
- ・第5回大学祭に向けて、2年生を中心とした大学祭実行委員が、前期から準備を進めています。様々な困難を乗り越え、達成する力を養う機会となることが期待されます。
- ・2年生は自家用車通学が多いため、交通事故防止のための注意喚起を行っております。ご家庭でも引き続きご指導をお願いいたします。

(担当：大藪・大平)

3年生の概況について

「教務」「卒業研究」「キャリア支援」担当教員

大学生活4年間の折り返し点も過ぎ、卒業まで1年半となりました。今年度の学外実習も社会福祉関係を残すのみです。一人ひとりが、将来を見据え進路を固める大切な時期がきてることへの自覚が求められます。最近の概況についてお伝えします。

1. 学外実習について

- ・9月初旬から3週間（15日間）、「小学校教育実習」と「幼稚園教育実習Ⅱ」が行われました。この間、大学の教員は実習先へ出向き、現場の実習指導の先生方との懇談や実習参観を通して、日頃の授業やゼミとは違った実習生の姿を随所に知ることができました。実習生は、生の子どもたちとの関わりを通して、指導の難しさ、責任の重さを実感するだけでなく、自分の努力や工夫が子どもたちの笑顔となって返ってくることへの喜び、成就感も味わうことができました。今後はこの貴重な経験を存分に活かし、進路先の決定や大学生活後半の過ごし方に有意義に活かしてくれることを期待しています。
- ・社会福祉分野では、2~3月に「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」（25日間）が予定されています。長丁場の実習につき、学生の皆さんには日頃から十分な準備を行ってもらいたいものです。

2. キャリア支援（就職・進学）について

- ・3年生は全員、「キャリア支援講座Ⅱ」で小学校教諭、幼稚園教諭・保育士、社会福祉士、企業等の4講座の中で希望する講座を受講してきました。模擬面接や集団討論を織り交ぜ、いよいよ来年に迫った採用試験に向かい、教員も一丸となって取り組んでいきます。
- ・後期には、「キャリア支援講座Ⅲ」が開講されます。前期の内容をさらにレベルアップさせ、一人ひとりの学生が「なりたい自分になる」ためのサポートを行っていきます。

3. 卒業研究について

- ・4月から卒業研究ゼミに配属された3年生は、卒業研究とはどういうものなのか、教養演習の研究とは違うのか、自分はどんなテーマで追究しようかなどについて考えてきました。他大学・学部の多くは、卒業研究期間は4年次の1年間だけですが、子ども育成学部では3年次からの2年間を当てています。大学4年間の総仕上げとして十分な時間をかけ、レベルの高い卒業論文に仕上げてほしいという大学の願いは学生に通じているものと思われますが、この時期、卒論のテーマを明確にし、研究を積み上げている学生は多くないのが現実です。
- ・4年次になると、授業・実習に加えて、採用試験の準備なども含めた就職活動に多くの時間を取り、卒研に掛けられる時間は予想以上に少なくなります。3年生のうちに中間発表のポスターを完成させるくらいの意気込みが要求されます。学生の皆さんには、もう一度卒研シラバス（授業計画表）を見直してみることを望みます。
- ・4年生の就職状況、求人情報などが次々聞こえてきています。景気は上向いているとの報道もありますが、厳しい現実であることは間違ひありません。これから卒業までは、最も大切な時期です。毎日の授業はもちろん、寸暇を惜しんで、卒業研究と就職活動に専念する必要があります。
- ・保護者の皆様には、生活状況の把握、健康への留意、励まし等をお願いいたします。

（担当：仲井・本江）

4年生の概況について

「卒業研究」「キャリア支援」担当教員

卒業まで残り半年となりました。大学生活4年間の総まとめとしての後期が、いよいよ始まります。一人ひとりにとって、卒業後の進路に向けての総仕上げとなる大切な時期がきていることへの自覚が求められます。最近の概況についてお伝えします。

1. キャリア支援（就職・進学）について

- ・後期では、26名がインターンシップ実習を行います。教育・福祉・保育の実践現場で就業体験するとともに、進路選択や専門職のあり方について考える良い機会となります。
- ・小学校教員採用試験では7名が合格（うちOB2名）、保育士・幼稚園教諭採用試験では、前年を上回るペースで、9月20日現在で公立・民間合わせて14名がすでに内定を得ています。社会福祉関係では、市町村職員採用試験や福祉職場説明会・職場訪問にもチャレンジしていますが、成果はこれからです。企業関係でも、昨年よりもペースが遅れ気味で、苦戦が続いている。なお、大学院進学では、2名が合格しています。
- ・保育士・幼稚園教諭、社会福祉士採用では、例年になく求人が早くから出されています。学部では、求人情報について一斉メール速報で情報提供しておりますが、関心を示す学生が少なく、全体的に就職活動に対して消極的な姿勢が見受けられます。特に保育士関係においては、後になればなるほど採用条件が厳しくなりますので、早めに応募することが重要となります。ご家庭でのお声かけをお願いいたします。
- ・後期には、社会福祉士国家試験受験者を対象に「キャリア支援講座IV」が開講されます。1月26日の国家試験に向けて、最終的な受験体制に入ります。当日の試験は、午前2時間15分、午後1時間45分と非常に過酷な内容です。知力はもとより、体力と気力が不可欠となることから、体調管理も必要になります。保護者の皆さまの温かい励ましが大きな力になることと思います。引き続き、ご協力を願いいたします。
- ・教員一同、一人ひとりの学生がこれまでの学びを基盤に卒業に向けて、「なりたい自分になる」ためのサポートを行っていく予定です。保護者の皆様には、生活状況の把握、健康への留意、励まし等をお願いいたします。

2. 卒業研究について

- ・卒業論文は、4年間の学習や活動の成果であり、論文提出締め切りの1月上旬に向けて、一人ひとりがそれぞれのテーマに向けて研究を進めています。子ども育成学部では、教育分野・福祉分野・保育分野等を中心に、調査・研究を行っています。5月末の卒業研究中間発表では、研究成果を1人当たりA4判8枚分のポスターにまとめて掲示しました。また、10月の大学祭では、再び4年生全員がポスター掲示をすることになっています。是非ご来校の上、ご覧になって下さい。
- ・卒業研究発表会は、来年2月8日（土）に開催されることになりました。発表会までには、論文提出はもちろんのこと、「要旨集」原稿提出のハードルもクリアしなければなりません。3年次前期に卒業研究を始めた頃は、発表会はまだ先の先でしたが、授業、実習、就活と忙しい日々を過ごしているうちに、残りわずかな期間となっていました。
- ・卒業研究は極めて創造的な作業です。将来、どのような職業に就いたとしても、この体験は必ず生きてくるはずです。今後は卒研で頭の中が一杯の日々が続くことでしょうが、保護者の皆様には、健康状態を気遣いながら、温かく見守っていただきたいと存じます。

（担当：原・相山）

9. 研究活動

1. 実績と現状

(1) 紀要の発行

紀要集の電子化（PDF化およびWeb閲覧）に伴い、平成24年度は紀要執筆の締め切りが曖昧になる傾向が見られたが、平成25年度は予定よりやや遅れた3月末の発行となり、本学部では12名から13篇の投稿があった。

①「富山国際大学子ども育成学部紀要第5巻」の作成（H26.3）

- 相山 馨 「ケアマネジメント研修における「地域包括ケア実践シート」の活用性」
大平 泰子 「大学生における自傷行為と対人関係—愛着スタイルおよび感情イメージとの関連から」
大藪 敏宏 「善と愛の偶然性と福祉の偶然性—ヘーゲル法哲学における社会的福祉概念の体系的導出の問題」
大藪 敏宏 「表現と実践から介入へ—ハッキングとポランニーおよびジジェクと20世紀哲学史の収斂」
彼谷 環 「雇用の場におけるジェンダー平等を目指す動きと課題」
辻井 満雄 「小学校における教職科目「教職論」のシラバスの開発に関する一考察」
鶴山 博之 「中学校陸上競技部のリーダーシップに関する研究」
原 稔 「小学校理科の電熱線実験に適した電源」
開 仁志 「保育実習における経験録（試案）」
福島美枝子 「二つの言語と文化の中で育つ子ども達への支援」
堀江 英一 「富山県の小学校校歌をつくった人たち—作詞者及び作曲者の観点から」
村上 満 「エンパワメントの概念整理と研究動向—スクールソーシャルワーカーのエンパワメント構築に向けて」
室林 孝嗣 「知的障害のある人の支援のタイプと個別支援計画に関する研究—T法人における個別支援計画の作成に関する研修を中心に」

(2) 助成研究への取り組み

①文部科学省学術研究助成基金（科学研究費補助金）

- 相山 馨 「介護者のケアマネジメントにおけるアセスメントツールの開発」（H25～27）
彼谷 環 「日本とドイツにおけるポジティブ・アクション政策の比較憲法的考察」（H23～25）
原 稔 「教員養成学部における「ものづくり」を重視した理科教育プログラムの開発」（H24～25）
村上 満 「スクールソーシャルワーカーの学校現場への定着に向けた総合支援カルテの開発」（H24～26年）
吉田 昌弘 「「教育」概念によって統合された法制度の形成過程についての歴史的研究」（H25～27年）

②(財)富山第一銀行奨学財団助成研究

- 仲井 文之 「富山県の小学校国語科教育の系譜～小学校国語科教育の在り方を求めて」（H25年）
原 稔 「教員のための理科授業用天体写真の撮影マニュアル作成に関する研究」（H25年）
吉田 昌弘 「行政と家庭教育についての歴史的研究」（H25年度）

(3) 研究交流サロン

第12回研究交流サロン（H25年5月22日）

- 大藪敏弘准教授 「富山国際大学の基本理念と富山の地域哲学—社会科教育と総合的学習の観点から」

(4) ニュース・レター「子ども育成研究」の発行

「子ども育成研究第7号」(H25年10月) :

第5回子ども育成フォーラム報告・キャンパスニュース・教員の研究活動

「子ども育成研究第8号」(H26年3月) :

第5回公開セミナー報告・キャンパスニュース（卒研発表会・進路状況など）

(5) 小学校教育研究会定例研修会

第5回(H25年12月21日)、第6回(H26年3月1日)

2. 課題

(1) 研究助成の競争的資金獲得への取り組み

① 文部科学省学術研究助成基金（科学研究費補助金）

平成22年度に基盤Cで1件の採択があり、それ以降毎年2件ずつの採択を受けている。累積すると5件の研究が進行している。今年度も新規2件を加えて5件の研究が行われた。各教員の自由な発想に基づく研究について今後も積極的な応募がなされ、採択が継続されることが望ましい。各教員における意欲と研鑽に依る部分が大きいだけに、教育活動とともに研究にも専念できる環境づくりの重要性が増しており、この面での研究交流センター、紀要委員会等の貢献が必要となっている。

② (財)富山第一銀行奨学財団助成研究

7月に発表会があるものの、各大学2件（各学部1件）程度であり、それ以外の研究課題は発表の機会がなく研究内容の報告も明確ではない。紀要発刊や報告書出版などによる研究成果の公表が必要である。

(2) 研究交流サロン

平成22年5月の第1回目から、平成25年度までに12回のサロンを開催した。今年度は3回の開催を予定していたが1回のみの開催となった。本学部の教員の専門分野は多岐にわたるため、教員相互の専門性や研究内容の相互理解を促進するためにとても良い機会となっている。本サロンのこの意味づけを今一度確認し、この事業を活性化することが必要である。

(3) その他

平成25年度は小学校教育と保育の部門で学生達の研究サークル活動が展開され、小学校教諭となった卒業生の研究発表も実現した。2期生が卒業し、子ども育成の専門職で活躍する卒業生が徐々に増えていく中、本学部の卒業生と在校生および教員を中心とする「子ども育成学会」の構築へと発展していくことを期待したい。

10. その他

1. 実績と現状

(1) 子ども育成学部第2期生 76名卒業

- ・学位記授与式：平成26年3月18日(火)10:00～、富山国際会議場3階ホール

(2) 呉羽キャンパス整備等検討委員会発足(平成25年5月1日施行)

- ・下部組織として、施設整備部会、学生部会の2部会設置

(3) 富山短期大学新校舎及び学生ホール・多目的ホール兼体育館共用施設の完成

- ・工事期間：平成24年4月より平成25年8月末
- ・竣工式：平成25年9月20日(金) 10:00 学生ホール(G館1階)
- ・新校舎：F館 食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻棟(5階建)
G館 学生ホール・多目的ホール兼体育館棟(2階建)

(4) 学園創立50周年記念式典・記念祝賀会・記念講演会開催

- ・平成25年10月17日(木) 10:00～ G館 新学生ホール・多目的ホール
- ・記念式典：約1000名参加(石井知事、森市長(代理老月副市長)、杉本県議会議長、田畠衆議院議員、小出日本私大協事務局長他来賓300名、学園関係者・学生・生徒・園児約700名)
- ・記念祝賀会：約200名参加(来賓約160名、学園役職教職員約40名)
- ・記念講演会：講師 鎌田實(諏訪中央病院名誉院長)
演題 「生きているってすばらしい—自分の人生は自分で開く—」

(5) ホームページ掲載

- ・子ども育成学部ブログ(H25.4～26.3)

内訳：ニュース45件・イベント14件 (H25年度：ニュース56件・イベント8件)

2. 課題

- (1) 学生用プリンターの消耗品費削減の検討
- (2) 教具・備品等の故障・修繕発生件数の増加
- (3) 学生アメニティー空間、学習用空間の整備
 - ・1階ラウンジ照明、各フロアの学習環境の整備
- (4) 呉羽キャンパス各機関との各種調整(時間割、施設使用、行事日程等)

11. 将来構想

1. 実績と現状

(1) 子ども育成学部アクションプランの策定

- ① 全学のアクションプラン（H26～28）に対応した取り組み

平成 25 年度末に全学のアクションプランが策定され、子ども育成学部においても、策定に向けた検討を行った。具体的な活動計画（3 カ年計画）については、26 年度当初までに策定される予定である。

- ② 子ども育成学部の各部署の新規・重点事項の設定

アクションプランに呼応しつつ、学部内の各部署の新規・重点事項の設定について検討した。26 年度当初までには、具体化する予定である。

(2) 「子ども育成学部第 2 期運営計画（中間まとめ）」とアクションプラン等の整合性

子ども育成学部では、平成 24 年 8 月に「第 2 期運営計画（中間まとめ）」を策定し、平成 24 年度から 25 年度にかけて、その実現に向けて改革に取り組んできた。

その要点は、以下のとおりである。

- ① 教育課程の見直し 26 年度新課程を目標に準備を進め、25 年度中に学則を改正した。
- ② 教員組織の再編成 小学校教育分野の専任教授を増強し、中堅教員層を拡充した。
- ③ 学生支援の充実 学友会・サークル活動・同窓会活動など学生支援を強化してきた。
- ④ キャリア支援の充実・体系化 26 年度新課程から正規科目とし、充実を図った。
- ⑤ 研究・交流事業（子ども育成研究交流センター）の強化

学内学会設立への動きは、小学校分野にとどまっている。

- ⑥ 実習環境の整備 実習事務担当者の配置、実習協力園（民営化）確保は未達成。

将来計画に向けた学部独自の取り組み（第 2 期運営計画）が先行し、その後に全学的な規模でアクションプログラムの策定作業が始まったことから、それらの整合性に留意していかなければならない。

2. 課題

(1) アクションプラン等の実施と PDCA サイクル化

アクションプラン（全学・学部）と、それとの関連で学部各部門の行動計画や新規・重点的に取り組む事項についても、確実に実施して、PDCA サイクル化していかなければならぬ。

(2) 学園創立 50 周年以降の中長期的構想

本学園は、昭和 38 年に地域密着型の学園（旧・学校法人富山女子短期大学）として設立された。創立 50 周年の平成 25 年以降の経営戦略・計画は、現在のところ不透明である。富山短大の発展型として呉羽キャンパスを開設した子ども育成学部の将来を確かなものにするためにも、学園の中長期的な構想を積極的に検討していかなければならない。

(3) 子ども育成学部の中長期的構想

〔参考1〕「富山国際学園50年史」に記された「子ども育成学部の未来像」

平成26年3月発行の「富山国際学園50年史」の中で、宮田伸朗子ども育成学部長は、以下のとおり「子ども育成学部の未来像」について記述している。

子ども育成学部の教育理念・目標は、人口減少時代における健全な次世代の担い手を育成する、資質の高い教育・保育・福祉の専門家を養成することにある。地域における社会的使命達成のための課題は多い。

中長期的課題としては、①中学・高校・特別支援学校教員、心理・精神保健福祉人材などの養成課程開設、②教育課程の一体化を軸とする高大接続、保育・介護系人材養成学科との連携・接続など学園内の一貫教育システムの構築、③いじめ・学力向上、子育て支援など地域課題の解決のための県内自治体との共同研究や協働の推進などがイメージされる。

〔参考2〕「平成26年度予算要求書（1. 子ども育成学部の概要）」に記された「将来展望」

子ども育成学部では、例年の予算要求書の冒頭に「子ども育成学部の概要」を提示し、その中で「将来展望」を記載している。平成26年度予算要求書では、以下のとおりである。

○子ども育成に関する社会的要請に応えうる学部の将来構想について検討する。（例）

- ・中学/高校教員免許課程、4年制保育教諭課程（仮称）、心理・精神保健分野の開設など
- ・複数資格履修コースの整備、学部定員増など
- ・中長期の課題（特別支援教員免許、高度な専門職教育など）についての研究